

2023 年度学校自己点検・自己評価報告書

2024 年 6 月

学校法人 ISI 学園 専門学校 東京ビジネス外語カレッジ

2024 年 6 月作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	1	基準 4 教育成果 専門課程	19
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	1	4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	19
1-2 学校の特色はなにか	2	4-19 資格取得率の向上が図られているか.....	20
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	2	4-20 退学率の低減が図られているか.....	21
基準 2 学校運営	4	4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	22
2-4 運営方針は定められているか.....	4	基準 5 学生支援 専門課程	24
2-5 事業計画は定められているか.....	5	5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	24
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	6	5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	25
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか.....	7	5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	26
2-8 意思決定システムは確立されているか	8	5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか.....	27
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	9	5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか.....	27
基準 3 教育活動 専門課程	10	5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	28
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	10	5-28 保護者と適切に連携しているか.....	28
3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか.....	11	5-29 卒業生への支援体制はあるか.....	29
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか.....	12	基準 6 教育環境	31
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか.....	13	6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	31
3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	14	6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	32
3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか.....	15	6-32 防災に対する体制は整備されているか.....	32
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか.....	17	基準 7 学生の募集と受け入れ	34
3-17 資格取得の指導体制はあるか.....	18		

7-33	学生募集活動は、適正に行われているか.....	34
7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	35
7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	35
7-36	学納金は妥当なものとなっているか.....	36
基準 8	財務	37
8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	37
8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	37
8-39	財務について会計監査が適正に行われているか.....	38
8-40	財務情報公開の体制整備はできているか.....	38

基準 9 法令等の遵守..... 40

9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....	40
9-42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....	40
9-43	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....	41
9-44	自己点検・自己評価結果の公開はしているか.....	41

基準 10 社会貢献..... 43

10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....	43
10-46	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....	45

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5	本校では、学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などは、当校のホームページ、入学案内書に明示。コース別教育目標も示されている。	理念・目標・育成人材像の浸透は図られている。国内外の経済社会の変化に対応している。校長による研修（教職員対象／学生対象）を年数回実施し、常に最新の情報で教育が展開できるようにしている。
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	本校では、理念・目的・育成人材像を実現に向けて、中長期の計画・方法の策定を行っている。	具体的な計画・方法について、その時期の状況に応じて改善をしている。
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	昨年度と同じく、中期経営計画を達成するため、当校のバランススコアカードの作成、戦略目標の立案を行っている。	経済社会の変化について、よりグローバルな視点でとらえ、それに応じた対応をしていく。
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	学内に学校法人 ISI 学園の理念が記載された額を掲示しており、学外には学校案内書・ホームページで広く公表している（昨年度と変更なし）。	教職員にはグループ全社を挙げて行うキックオフミーティング（4月）で周知徹底されており、学生には在学中のオリエンテーションで年に数回周知できている。

1-2 学校の特色はなにか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	5	本校には、30以上の国と地域出身の学生が在籍しており、グローバルな学校として自負している。各コースにて企業との連携を強化し最先端の教育コンテンツが準備できている。	本校ならではの多国籍環境において、グローバル人材を育成し、また、進路の多様化に答えるべく、就職はもちろんのこと、進学、起業も支援している。

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	時代の変化に対応し、また社会のニーズに合わせて、3年ごとに中期経営計画を策定している。さらに、そこから戦略マップ・戦略目標・KPIそして個人目標へと細分化している。	経済社会構造、留学生の国際移動の変化など、動きを敏感に捉え、授業カリキュラム構成、就労支援や募集活動に活かしているところである。2024年4月からは新コースであるホスピタリティ・ビジネスコースを立ち上げ、社会のニーズにこたえることのできる人材育成を展開している。

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、理念・目的・育成人材像について、より具体的、実現性を明確にするため、各項目について、行動指針を策定し具体的な実践をするようにしている。</p> <p>また中期経営計画においては、上記の理念等を念頭に置いて、バランススコアカードに基づく戦略マップを作成し、戦略目標・数値目標・KPIを明確にしている。それをもとに、各教職員がそれに沿った形で個人目標を半期ごとに立てるようにし、人事考課を行っている。</p> <p>経済社会の変化について、柔軟に対応するためにもダイバーシティ学校運営を基軸に当校の将来構想を考えている。</p>	<p>本校ではデジタル・ビジネスコース開設、各コースの科目変更の実施、さらには、2024年度にはホスピタリティ・ビジネスコースの開設にて、より充実した教育環境づくりをしてきた。多くの外国籍の学生が在籍する中で、グローバル化に対応できる優秀な日本人の獲得と育成に力を入れているところである。加えて、グローバル人材育成も大きな教育の柱として、教育体制を強化しているところである。また、学校全体のデジタルシフトを進めるべく、各コースのカリキュラム、有効コンテンツの共有を進めていく。</p>

基準 2 学校運営

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	5	数年ごとに作成される中期経営計画をもとに各年度において戦略目標・数値目標・KPIを策定している。それをもとに、戦略マップに基づいて学校運営BSCを設けている。	今後も、国内外の社会情勢の状況、ニーズの変化などに柔軟に適応しつつ、新たな経営計画に基づいた運営が必要である。
2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	5	年度初めに実施されるキックオフミーティングにて学園と学校の運営方針が周知・説明されている。さらに本校のファイルサーバーにも保存をしていつでも閲覧できるようにしている。	学校内での運営方針は共有されている。これを部門で共有し、各事業に活かした相互でのシナジーが発揮できるようにしたい。
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	5	学生スタートブック・教職員ガイドブックにて細かく諸規定を記載し配布している。デジタルデータにしており、どこでも閲覧できるようになっている。	設定した諸規定をさらに浸透させるようにしていく。

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	5	各年度に事業計画を設定し、学校の目的、目標を達成するために事業計画を個人目標レベルにまで落とし込んでいる。 それらをもとに、年間スケジュールに沿って事業計画を進めている。	事業計画において、常に教育の質向上に向けて取り組みを実施している。今後もこの方針で進めていく。
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	5	事業計画を達成するため、学校内で、定期的マネジメント会議、部門ごとの定例会議にて進捗確認、課題の洗い出し、それに向けた対応策について検討ができています。	部門間の連携による学校全体での取り組みをより強化していく。 月次 MTG やマネジメント会議において、各項目の進捗具合を確認している。

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-6-6 運営組織図はあるか	5	運営組織図を作成されており、ポータルサイトでいつでもだれでも確認できるようになっている。	特になし
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	5	理事会・役員会は定期的開催されており、運営組織・意思決定機能は学校の目的・目標を達成するための効率的なものになっている	特になし
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	5	役職ごとの研修会で、役割基準の浸透を図り、職務分掌表で教職員一人一人の職務分担が明確になっている。	特になし

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	5	学園全体で研修を実施している。特にデジタル化推進に向けた研修と自己学習を進めている。これを土台に優秀な人材確保に向けた採用体制を強化している。	グローバル社会の中でデジタル化社会に対応できる人材を確保しつつ、社内でもデジタル化を推進し学校全体の業務効率を向上させるため、ITリテラシー研修を導入した。
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	5	人事考課制度は整備されており、具体的且つ詳細なものがポータルサイトでいつでも閲覧できるようになっている。	より質の高い方向を目指す
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	5	人事考課制度に詳細に昇進・昇格制度が記載されており、ポータルサイトでいつでも閲覧できるようになっている。	より質の高い方向を目指す
2-7-12 賃金制度は整備されているか	5	給与規定がきちんと定められており、ポータルサイトで閲覧できるようになっている。	より質の高い方向を目指す
2-7-13 採用制度は整備されているか	5	ISIグループのホームページ上で「求める人材」として5項目の条件を明示しており、個々の採用ステップについても明確になっている。	履歴書・職務経歴書による書類審査後、web適性検査を実施し、それもとに、直接の面接により「求める人材」に合致するか採用可否を決める。
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	5	豊島区に教職員の異動があった場合、採用届・解職届を提出しなければならず、教職員名簿も併せて提出している。	特になし

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	5	定期に実施されるマネジメント会議で審議事項を討議し、最終的に校長の承認を得るシステム体制ができている。	マネジメント会議をはじめ、各部門の会議体制も確立させている。これを土台に、教職員間の意思疎通、意思決定の円滑化を進めている。また日々の業務において夕礼を実施し、教務、キャリア、募集、事務局で情報を常に共有できる機会を設けている。
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	5	マネジメント会議にて審議事項を討議し、最終的に校長の決意により意思決定する仕組みが確立されている。	マネジメント会議の実施により意思決定のプロセスが円滑になり、それをもとに、各部門、そして教職員に共有されるようになっている。
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	5	意思決定に関する権限、流れはしっかりしており、組織としてしっかりしている。稟議システムが確立されており、ポータルサイトで階層別に決裁権限が割振られスムーズに承認を得るシステムも確立している。	人材の確保だけでなく、社内の研修を通して、育成に力を入れている。

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	4	学园内をつなぐ情報ネットワークシステムの強化が進められている。 各種のシステム、Wi-Fi 環境の強化を進めている。 授業関係でも情報システム化は、常に改善に努力が向けられている。	立地上の制約のため、Wi-Fi を使用した場合、不具合が生じることがある。この対策に向けて、常に対応しているところである。 授業関係では、学生に情報システム利用について指導と支援をし、スムーズな利用を目指している。

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、経済社会の変化、求めるニーズは何かをとらえつつ、また企業との連携をしながら、質の高い教育のできるように、スムーズな学校運営に努めていく。</p> <p>このことを念頭において、学校の目的・目標を達成するための事業計画を立て、具体化するために、バランススコアカード（BSC）を作成し、計画にそって運営している。</p> <p>学校法人 ISI 学園では、グループ校それぞれが、人事や賃金、処遇に関する制度をしっかりと整備している。関連する諸規定も学園ポータルサイトに保存されており、いつでもだれでも閲覧できるようにしている。</p> <p>各種決済方法等も取り質の高いシステムを使い、デジタル化・効率化を進めているところである。</p>	<p>経済社会の変化、企業の求める人材、多様化する学生ニーズなどに応えるためにも、新規事業としての拡大を見越した諸規定整備を進めていく予定である。</p> <p>事業計画に沿って運営されているかチェック・修正・改善を図る時間をきちんと設け、事業計画を達成できるように努力していく。</p>

基準3 教育活動 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	当校では、GBC 総研主催「教育課程編成委員会」のメンバーとして参加し、委員会の企業・専門家からアドバイス、その他の支援を受けている。また、委員会にて共有された情報、特に業界の動き・ニーズ、求める人材像などをもとに、カリキュラム、科目改定に活かしている。	今後も、経済社会の変化、ニーズ等について常に情報を確認し、また連携している企業、専門家からの意見やアドバイスをもとに、教育内容に反映させていきたい。なお、2023 年度からは東京大学先端科学研究センター 連携研究員の谷口教授をお招きし、世界の環境問題に対しより知見を広めていける体制を整えている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を養成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4	<p>当校の授業は、本学の教育方針をもとにシラバスを策定し、計画的に運営している。</p> <p>各科目では、段階的な到達目標を設定し、随時目標達成度を確認しながら、段階に応じた目標設定、内容の確認や目標も設定している。</p> <p>各目標は、業界からのニーズ、求める人材像を念頭において策定している。</p>	<p>経済社会の状況を見ると、グローバル化社会の中、より高度な人材が求められている。特にデジタル化の中で、知識とそれらを使いこなす人材が求められており、こうしたニーズに対応できる教育体制作りが求められる。</p>

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4	例年通り、経済社会のニーズに対応できるように編成し、教務部内で各コースの出口に合わせた特色ある体系的なカリキュラムの検討を重ねている。	定期的カリキュラム、授業科目を見直していく必要があるため、引き続き、検討・改定をしていく。現在、アクティブラーニングの導入を主軸に授業内容等の大幅見直しを開始しているところであり、アクティブラーニング実施率を50%以上とする予定である。
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	4	当校では、例年通り、①内部にカリキュラム検討会（各種の科目担当者会議にて）を設置し、内容の検討を実施している。その結果を、②外部機関（企業、GBC 総研等）から意見を聞き、カリキュラム修正等に反映させている。	今後も企業関係者から意見を聞き、業界情報や求められる人材像をもとに、カリキュラムに反映させていく。加えて、企業との連携や業界関係者による授業や講演を通して、実施しており、今後も継続していく。経済社会の変化やニーズ対応に迅速にしていきたい。
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	5	当校の各学科コースのカリキュラムは学内の教職員による検討会（教務会議、科目担当者会議等）で検討し作成している。	引き続き、学内で科目担当者会議を開き、カリキュラムの検討会を実施していく。今後もこの方向で進めていく。
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	5	定期的カリキュラム内容の見直しを行い、新年度にて、新カリキュラムとして実施する流れにしている。	今年度はアクティブラーニングをより多く取り入れ、他コースとの合同授業を増やしているが、その問題点等について検討していく。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	4	カリキュラムに従い、授業科目について、毎年、内容確認・検討を重ね、必要な場合、修正・新科目の設定等を行っている。 現在、新しいカリキュラムによる体制作りに向けて、検討を行っている。	2024年度には英語ホスピタリティコースをホスピタリティ・ビジネスコースに再編するなどカリキュラムと科目について適宜評価修正しているが、適切な科目設定がされているか引き続き客観的な評価をし、改正していく。
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	5	毎年、当校指定のフォームをもとにして、シラバスを作成している。到達目標の明確化や演習系の授業内容を記載するなど、より分かりやすいシラバス作成を心掛けている。	シラバスの意図をしっかりと学生に伝え、より効果的な授業運営を行う。
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	5	授業担当教員に、前期・後期にそれぞれ、研修会を実施し、教育目標の確認、シラバス作成についての指導を行っている。	週複数コマ実施している科目や合同科目、連動する科目などについて、適切なシラバスになっているか精査していく。

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-14-10 学生による授業評価を実施しているか	4	前期と後期の2回、「学生満足度アンケート」を実施している。リアクションペーパーなど学生にわかりやすいアンケート内容を検討し、実施している。	ただアンケートをとって評価するのではなく、授業スタート後の早い時期に一度とり、学生のニーズや感覚とのギャップを確認し、後半の授業に活かし、再度評価をしてもらうように変更予定。また、アンケート結果は科目担当ごとにフィードバックシートを作成し、授業の改善に努めている。
3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	4	アンケート項目において、授業評価、授業満足度について確認できるように検討し、関連項目を入れている。	より分かりやすい（評価しやすい）アンケート方法を引き続き検討し、また、アンケート後すぐにフィードバックし、授業に反映させることのできる体制を構築する。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4	教員・講師採用において、当校勤務に見合う人材の選定を行っている。学生目線に対応できる点も考慮しているのみならず、社会的評価の高い実務経験を有しているほか、半数は博士学位を有している講師も在籍。	教員ガイドブックを作成し、当校の理念・教育目標、授業や学生指導の在りについて理解してもらっている。 例年通り、採用方法について、より強化し、優秀な人材の確保育成に力を入れている。
3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4	授業科目にある専門性の高い教職員募集に力を入れている。加えてデジタル化に対応できる人材登用に力を入れている。教職員のデジタル化推進も強化しているところである。	昨年と同様に、当校にて勤務している教員に、ITリテラシー研修を行い、当校のデジタル教育体制の強化しているところである。
3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	5	当校では、専門性及び学校勤務の適性関係について適切に見ている。また ICT も含めて、教育の高度化に向けた研修を実施しているところである。現在も継続して進めている。	毎年改善しているが、評価方法について、偏りがないように、評価項目、内容等、多方面から評価・判断できる方法を検討し、改善している。また教育技術の研鑽を目的に各教員の専門領域での体験談や論文をまとめた紀要を作成した。
3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	5	学校主催にて、研修会を年 2 回実施している(3月、9月)。今年度も、アクティブラーニング授業方法、教育のデジタル化について研修をし、適切な使用法、注意事項等を追記した。	アクティブラーニングを取り入れた授業が実施できるように研修を行う。また ICT 関連についても引き続き研修を実施し、AI 時代に適した人材育成を行う。
3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	4	教授力の把握について、研修会や担当講師との面談等を実施している。	教授力の向上のための努力などの評価についても検討していく。学生からの評価だけでなく、専任講師が授業見学などを積極的に行い、評価を試みる。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	学習分野、科目ごとに担当教員が集まり、定期的にミーティングを実施し、教授力アップに力を入れている。	昨年度まではオンライン授業の教授法なども研修等で行ってきたが、今年度は対面を重視し、アクティブラーニングやディスカッション中心の授業に関する研修を増やし、対面での教授力向上に力をいれていく。
3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	4	科目・分野間でのミーティング等での連携が取れている。同時に、当校の教職員による全体での交流、中核講師による横の連携・支援ができている。	違う分野、授業担当の教員間で交流し、より良い授業作りをめざしている。学校が主体となり全講師と交流会を盛大に開いて環境づくりに力を入れている。
3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか	4	当校では科目担当の専任教員が軸となり、非常勤講師をまとめているが、ベテランの非常勤講師が中心となり、若手の講師への支援を行っている。担当科目内で非常勤講師たちがまとまっているところが強みである。	職員室のレイアウトを大幅に変更し、講師同士の交流が活性化するようにオープンスペースのデザインを採用。ソファールームも用意し、休憩時間に和やかに交流できるようにし、互いに学び合いを行っている。また学校主体で講師会なども招集している。
3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か	5	当校では、講師の採用には非常に厳しい基準(授業力、人間性、当校理念との適正等)で臨んでいる。海外からの学生も多く、また学生の学習歴や職歴も多様化していることから、より優秀な人材の獲得に力を入れているところである。	授業科目を適切に指導できることに加えて、デジタル教育に強く、学生管理のできる人材の確保・育成にさらに力を入れていく。既存の非常勤講師にも指導と支援をさらに行っていく

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	当校では、成績及び単位認定評価について、明確な基準にて行っている。 年2回の期末試験を実施し、試験点、出席点、平常点による総合的な成績評価、及び単位認定を行っている。	成績・単位認定について、より明確化のため、GPA評価を利用している。学内表彰、奨学金等の利用にて、効果が出ている。成績や単位認定は複数の教員がチェックを行い、偏った評価をしていないかチェックしている。
3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	5	提携大学との単位互換・単位認定ができるように、検討を続けている。 上記をもとに、国内外の大学等に交渉をしているところである。今後も提携大学を増やしていく予定である。	引き続き、評価・認定については、内容やフォームの標準化・明確化を進めている。 現在、学期途中に発生する単位互換についても検討しているところである。

3-17 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5	毎年、学園にて、教育目標を定めている。これをもとに、各ポリシーを作成し、学科コース、カリキュラム等の、目標・資格を明確に設定している。	経済社会状況の変化に合わせて、定期的カリキュラムの見直し、関連資格の設定、といった機会を作り、教育目標・資格等について検討をしている。目標と関係のある資格選定を今後も行っていく。
3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5	目標に合わせた資格選定を行い、授業を展開している。社会や企業のニーズに対応できるようにしている。	毎年、ターゲットにする資格を検討し、学生への告知、指導を続けている。今後も、この流れにて、強化していく。

総括	課題及び改善内容
<p>当校では、経済社会の変化を見つつ、社会の求める人材作りに向けた教育を実施している。</p> <p>コロナ禍では「オンライン授業」など遠隔でのICT教育に力をいれてきたが、コロナの影響も落ち着き対面での実施が基本となってきたため、対面でのコミュニケーションを重視した教育内容に力をいれ始めている。特にアクティブラーニングなどは昨年度に研修を実施し、今年度からより多くの授業で取り入れていく基盤を構築し、今年度の授業で実施している。またより多くの国籍・文化の学生とコミュニケーションをとり、様々な観点で考える力を養うため、コースをまたいだ合同授業を実施しグループディスカッションを多くとりいれている。</p> <p>コロナによって移動が制限されていたのが緩和され、国際的な移動やコミュニケーションが復活している中で企業や社会に求められる人材育成を意識してカリキュラムを作っている。</p>	<p>学校が用意した教育に対して、学生による評価、第三者による評価、教育の成果を具体的な数値など見える形にして、次につなげていくようにする。アンケートや評価で終わるのではなく、それをどのように活かして変化が起きたかにフォーカスしながらPDCAサイクルをまわしていく。</p> <p>また、校長主導による各種研修を実施し、常に最新の情報による教育、社会が求めている人材育成ができる環境を整えている。</p>

基準 4 教育成果 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

4-18 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-18-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	組織内にキャリアセンターを設置し、就職・進学関係の支援・指導に力を入れているところである。また当校に、キャリア指導の職員を2名常駐させ、進路指導対応ができる体制になっている。	就職率は安定して高い水準であるが、質を高めていく。より学生にあった、より良い企業に就職させるために①個人面談によるニーズや適性の判断②インターンシップなどを通し適性への再認識を行う③少しでも良い企業にチャンスがもらえるよう資格等の取得、を強化していく。就職後の学生の状況についても後追いをし分析していく。
4-18-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	進路結果について、定期的に動向がわかるように、情報収集・整理と、分析できるように、様式、データ整理ができています。	分析した結果を本人、他の学生、後輩の就職活動に活かせるような仕組み作りを実践している。

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-19-3 資格取得率の向上が図られているか	4	当校では、各学科コースの共通分野として、社会分野、語学関係の資格受験を勧めている。英語では TOEIC を中心に英語資格取得を奨励し、留学生には日本語能力試験 (JLPT) を奨励している。社会分野では、ビジネス実務マナー検定の対策授業を行っている。デジタル・ビジネスコースでは、情報系資格 (日本ディープラーニング協会の G 検定取得や IT パスポート) までリーチできるような授業を展開し、日中医療通訳コースでは国家資格相当の登録販売士の資格取得講座を開講し2年連続合格者を出すなど、学科コースごとに、専門の資格の対策授業を行っており、教育目標の達成と並行して授業を実施している。	資格対策授業の課題として、個々人の学力差が変わらず、大きな課題となっている。学科コースの専門授業では、大きな差が出ないが、語学関係では、差が大きくなってしまい、クラス分けによる授業体制にしている。民間資格だけでなく、広く社会に通用する資格を取得できるよう資格内容の精査を毎年行う必要がある。学校全体の更なるデジタルシフトに備え、IT パスポートは学校全体の目標としていきたい。
4-19-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	資格取得状況について、定期的に確認し、個々人の獲得状況について整理できるようなファイルを作成し、状況を把握できるようにしている。この情報をもとに、学生面談・指導に役立てている。	現在、面談やアンケートといったことを通して、取得状況を把握しているが、学生ポータルサイトなどの導入により、自分でも取得申請ができるようになってきている。自己申請率アップが課題となっている。情報の更新について、各学生から学校にスムーズにできることを大きな目標にしている。

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-20-5 退学率の低減が図られているか	4	<p>入学後、定期的／不定期的に学生と面談を実施し、目標設定等を通して、学業意欲の維持・向上に向けての努力をしている。</p> <p>定期的な面談を実施し、卒業まで、学習生活、進路相談等を行いながら、学生支援を行っている。</p> <p>また、月間出席率 50%未滿者への事務局長及び教務部長による面談、保護者連絡を実施し問題のある学生の早期問題解決に努めている。</p> <p>また学校カウンセラーも活用し、早め早めにカウンセラーと気軽に話せる環境を用意している。</p>	<p>退学に関して、支弁関係が理由によるものがみられる。この対応として、奨学金や給付金などの利用を進めている。学生面談を通して、学生の生活面を確認し、様々な支援をしているところである。</p> <p>また、1年次での進学や就職も多く見られたため、学生との早期面談はもちろんのこと、保護者との連携も早い段階に行い、問題の早期解決に努める。</p>
4-20-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	<p>学内で人数を把握している他、管轄の豊島区、東京入国管理局に在籍についての情報を提出しており、定期的に人数を把握できる体制になっている。</p>	<p>定期的に豊島区、東京入国管理局（留学生）に退学者数、その推移を提出している。</p> <p>潜在的な退学者の人数をより正確に把握し、早期解決につなげていく。数の推移を見つつ、退学者を減らす各種の指導を実施していく。</p>

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-21-7 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	在校生・卒業生を呼び、卒業後の進路や活躍について当校の関係者に発表してもらう会を年1回開催。ウェブサイトやSNSを通じて内外に発信している。 今後も卒業生との交流に力を入れていく予定である。	卒業生数が増えており、国内外で活躍していると思われるが、まだ得られる情報が少ないところである。卒業生からの情報を収集していきながら同窓会組織を立ち上げていく予定である。
4-21-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3	卒業生の活躍について、数少ないものの、企業での活躍や、起業等についての情報がみられるようになった。マスコミなどによるものはまだ見られないが、今後期待したいところである。現在、活躍の兆候になる学生が期待されており、今後、学生支援に力を入れていく。	内定企業の業種など授業と直結する卒業生が出てきているため、今後の活躍に期待したい。 TBLの制度を活用して留学した学生には大使館、先端分野企業での勤務者も増えており引き続きフォローする。
4-21-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	3	2023年度は漢検主催の「今、あなたに送りたい漢字コンテスト」に応募したが残念ながら表彰には至らなかった。過去、作文「言の葉大賞」などの受賞歴がある。	プレゼンテーション（ピッチ）関連や英語関連（スピーチ）などに挑戦する予定。
4-21-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか。	3	2022年度一般社団法人言の葉協会「言の葉大賞」で入賞、公益財団法人愛敬福祉支援財団の主催するエッセイコンテストに2名出場し、2名とも各部（学生の部、留学生の部）で優秀賞を獲得した。	プレゼンテーション（ピッチ）関連や英語関連（スピーチ）などに挑戦する予定。

総括	課題及び改善内容
<p>専門学校という高等教育機関として、当校は、優秀な人材を社会に送り出すため、学生と関係を密にしつつ、高度な教育の場を提供することを念頭に、授業とキャリア指導を実施している。特にキャリア指導では一人一人しっかり面談をし、専門のキャリア指導者を常勤採用し、日本人と外国籍両方の就職活動をサポートし国際社会に貢献できる人材育成と送り出しを行っている。進学希望や留学希望の学生に対しても随時説明会を開いたり、面談を行いサポートしている。</p> <p>学生が社会で評価されるよう、資格取得にも力を入れ語学資格だけでなく医療やITに関して民間資格から国家資格相当も様々な資格を取得できるようカリキュラムを実施している、</p>	<p>資格はもちろん全国規模な公募にも参加するよう促し、学習の成果や学んできたことの集大成として学外からの評価を得、学生に対する社会的な評価につなげていきたい。また英語を使った国際的なコンペティションなども案内し、学びが世界と繋がっていくようにする。</p>

基準5 学生支援 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-22-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	キャリア支援担当を設け就職・進学ともに適正人員を配置し、授業や個別相談体制を敷いている。	キャリア支援担当を2名体制都市、企業訪問強化および個別支援を強化した。
5-22-2 就職に関する説明会を実施しているか	4	キャリア支援担当・担任による就職ガイダンス、合同企業説明会を定期的に行っている。	オリエンテーションでのキャリアガイダンスを実施した。また授業内での企業説明会を計画的に行っている。
5-22-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	4	1年次は前期と後期の年2回実施。2年次は随時キャリア支援担当職員並びに担任が学生個別面談を実施している。	学生一人一人のキャリアデザインに基づいた個別具体的な支援を実施している。
5-22-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	3	就職希望者に対してキャリアデザイン、就職指導、PCの授業内で履歴書の書き方や面接の仕方に関する指導を行っている。	留学生に対して、日本独特の就職活動を理解させる必要がある。キャリアデザイン授業等で日本文化の背景及び慣習を教えるカリキュラムをより一層良いものとする。(継続)

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-23-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	全クラス担任制を敷き、個別面談も年に4回実施している。加えて事務局でも学生相談に乗る体制を整備し、有効に機能している。 事務局でも学生相談、人権に関する研修に積極的に参加し実際の学生相談に活用できるよう努めている。 また学校医による予約制の健康相談を実施し、学生に有効活用してもらえた。 またスクールカウンセラーの巡回日も設け、学生の身体面・精神面の健康相談ができる体制となった。	まだまだ学生相談に関する体制は個人のスキルによるところが多く完全なものとは言い難い。 引き続き、学生相談に関わるカウンセリング等の研修等に教職員が参加する機会を増やし、学生相談に役立てたい。
5-23-6 学生相談室を開設しているか	3	学校カウンセラーによる相談を主としているが、事務局スタッフや担任以外の教員等、比較的様々な教職員に広く相談している様子が見られる。	プライバシー空間は会議室のみなので、会議等で使えないこともある。計画的な運用を検討。
5-23-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	4	学校医による予約制の面談を実施した。またスクールカウンセラーによる定期的な健康相談を実施した。	外国籍の学生など、日本語以外での相談も行えるようにしていく。
5-23-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	4	非常勤講師に医療系の資格をもった多言語話者がいるので必要な場合は非常勤講師に依頼し対応していただいている。	留学生のメンタル面での相談体制はまだ脆弱で、医療機関と連携しながら留学生のメンタル面の相談に乗れる体制構築が必要。

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-24-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	4	奨学金や公共機関からの減免制度については学校側から学生に対して常に発信し、該当者に対しては手続きを取るよう積極的に連絡している。また私的機関の奨学金制度などについてもアナウンスしている。 学校からは優秀な学生に対して奨励金制度を設けている。	企業と提携し人材育成を兼ねた形の奨学金制度など、様々な角度から奨学金制度を考え、より多くの学生が支援を受けられるようにしている。
5-24-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	4	2年次になるときに、審査の上認められた一部の学生に対し特別学習奨励費を支給している。公的な奨学金制度の活用も併用している。	特になし
5-24-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	4	学費の分納制度は設けられており、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能している。	学生の経済状況については、特に外国籍の学生については不明確な部分があり本当に支援が必要な学生かの判断が難しい。母国の両親は裕福でも本人が自立をしたいのとのことで両親の援助を受けず資金がないといっている場合もあり家庭の所得を知る手段が難しい。支援が本当に必要な学生が優先されるような整備が必要。

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-25-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	5	外部の医療機関に委託をし、年に1回学校に来校いただき、全学生の健康診断を実施している。	特になし
5-25-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	4	学生の健康管理を担う組織体制は事務局で分担しており、事務局が主体となって学生の健康診断を実施している。また巡回のスクールカウンセラーを設置している。	学生がより相談・予約しやすい体制作りを目指す。
5-25-14 学生からの健康相談等に専門に対応する医師・看護師等がいるか	4	スクールカウンセラーによる予約制の健康相談や巡回を行っている。スクールカウンセラーがいない場合も、医療コースの非常勤講師に看護師免許や医師免許をもつ講師が在籍。相談・対応できる体制になっている。	より専門的なスタッフの増員。

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-26-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	3	コロナの影響でクラブ活動やボランティア活動が非常に少なくなっていた。2023年度は目白警察署でのボランティアを実施した。	2024年度はコロナの影響もほぼなくなりつつあるので、ボランティア等を積極的に復活させていく。

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-27-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	ISI グループで学生寮 2 棟を設置し、遠隔地出身者のために支援を行っている。寮の管理人もおり、生活環境の質の維持、適応支援も行っている。	学生寮だけでなく、民間の物件紹介なども支援できる体制を作っていく。

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-28-17 保護者と適切に連携しているか	4	本校には、日本人学生以外に外国籍の学生も在籍していることもあり、柔軟な対応ができるようにしている。日本人学生については担任と保護者とが日常から連携に努めている。また外国人留学生の保護者については、英語・中国語をはじめ、母国の言語に対応できるようにして連携を行っている。特に学生の状況などは、担任や事務局等から保護者と密に連絡を取っている。	多くの国地域の額国籍の学生がいるため、非常勤講師の支援、学園内のスタッフも活用して対応できる体制を整える。

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-29-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	3	2018 年度に同窓会組織を立ち上げているが、コロナ以降、いったん小休止状況にある。しかし、進路支援において、卒業生が積極的に支援する機会が増えており、今後、それを組織化して、同窓会の活動に向けていきたい。	現在のところ、卒業生個人との連絡が主になっているが、学校からの情報発信などを通じて、同窓会の組織づくりを進めていきたい。
5-29-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	3	同窓会組織を立ち上げたが卒業生をフォローアップする体制がまだ整備不足である。学内の行事、企業説明会などを通して、卒業生が来校できるよう整えていく。	卒業生のポータルとなる HP の整備は行ったが、まだ活用できていない状況にある。卒業生が積極的に参加できるイベントなどを更に充実させていきたい。

総括	課題及び改善内容
<p>本校で力を入れている就職支援について、出口の多様性に応えるべく、就職、進学、起業など学生の希望の実現に向けた教育体制、支援体制を進めている。教育関係では、カリキュラム化、シラバス作成を推進している。加えて企業との接触機会が増えるように、説明会を実施しているところである。</p> <p>一方で、進路以外に生活、健康面等の相談機会も増えており、スクールカウンセラーによる定期的な健康相談を現在も継続している。</p> <p>上記も含めて、学生本人以外に保護者との連携も強化しており、日本人学生の保護者と日常から連携、外国人留学生の保護者との連絡体制も強化している。</p>	<p>進路について、キャリア支援担当スタッフ、担任を軸に学内全体で連携した学生指導を強化している。これをもとに、出口の多様性に応えるべく、就職、進学、起業など学生の希望の実現に向けキャリア支援内容を改善していく。</p> <p>現在、定期的実施しているスクールカウンセラーによる面談は、学生の抱える悩みや問題の解決に貢献できると期待している。</p> <p>支弁の面では、高等教育の修学支援新制度（無償化制度）の対象校となり、支援制度を充実させることができている。</p> <p>保護者の連携について、留学生には、さらに支援できるようにしたいため、常勤の教職員だけでなく、非常勤講師も含め複数で対応できる体制を整えるようにしたい。</p>

基準 6 教育環境

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-30-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	毎年、Wi-Fi 環境を調査し、改善と安定に向けての強化をしている。	立地の関係上、時折発生する不具合に対して迅速に対応できるようにしたい。 2024 年の 8 月に電車の電波に影響を受けにくい、環境で修繕する予定。
6-30-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4	昨年度と同様に、法定点検、日常メンテナンス共に体制は整備されている。また不定金発生する校内の不具合には常に迅速に対応できるようにしている。	日常メンテナンスに関してはルーティンでチェックできる体制が整っている。 老朽化による修繕に対して対応できるようにしていく。
6-30-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4	法定点検は、指摘事項に則り計画的に遂行している。	デジタル環境を含め、状況に合わせて、対応できるようにしていく。

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-31-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	5	本校では、2年次にシンガポールのMDIS、フィリピンセブでの集中英語研修、ハンガリーのメトロポリタン大学への交換留学、1年次での交換留学も実施している。留学に関して体制が強化されており、支援指導がしっかりしている。 同様に学外学習やインターンシップについても取り組みがしっかりしており、さらに改善と強化をしていく。	留学について、入学前より関心を持っている学生が増えていることから、早い段階での留学情報の提供、支援体制などができるようにしている。学内に留学支援の人材を置き、組織的取り組んでいるところである。 学外学習やインターンシップについても教務部、キャリアセンター内にて、より強化しているところである。
6-31-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	4	昨年度と同様に、学外実習やインターンシップ共に定期的に報告を受け、教育効果を確認している。 今年度は、学外実習やインターンシップが再開されるようになり参加する学生も増加した。	次年度は、企業と連携も増やす方向にある。加えて、さらに学外実習やインターンシップが増えることから、学生の参加中の状況、参加後のフォローアップなどきめ細かな対応のための体制を作っていく。

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	4	例年通り、防災に対する体制は、整備されている(体制図、避難経路、備蓄等)。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年1回通常は実施している。 今年度は、グループ校と合同で防災訓練を実施した。	今年度は、合同訓練を軸に実施したが、次年度は、避難地までの移動など、やや規模を大きくした形での実施を検討したい。
6-32-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	4	機器等の設置と場所の確認はできているが、新規採用者との情報共有をさらに進めていきたい。	日々、情報共有や啓蒙を行っているが、実際の災害時に利用できるように検討していく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	3	安全面での指導と学生保険に加入し、非常に備えている。	今後も、課外学習の機会も増えることから事故防止に対して常に気を配る体制整備していく。
6-32-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	4	大きな変更なく、例年通り、通学途中・教育活動中の事故に関する損害賠償保険には学生全員加入している。本部と連携した防災組織も整えている。	災害被害に対しての保険が免責事項もあり、今後更に補償範囲の広い保険への切り替えも検討したい。
6-32-10 防災訓練を実施しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年1回実施している（例年通り）。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、非常時に対応していく。

総括	課題及び改善内容
<p>本年度は、海外学習、海外留学の機会も増え、就職活動に関係して、インターンシップをする学生、短期留学・長期留学をする学生が増えている。</p> <p>インターンシップについては、長期・短期両方のマニュアルを改定し、柔軟に対応できるようにしている。</p> <p>年に1回防災訓練を豊島消防署、目白警察署の協力も得て実施していた各種訓練も次年度はできる方向にある。</p>	<p>課題での活動が自由にできるようになり、避難訓練または防災教育ができるようにしていきたい。</p>

基準 7 学生の募集と受け入れ

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-33-1 学生募集活動は、適正に行われているか	5	毎年、年間予定を立て、時期に応じた適切な情報提供や、問合せ・資料請求への即時対応、定期的なイベント開催（対面・オンライン）を活用した活動、学校への訪問活動など、学生募集活動は適正に行われている。	市場環境の変化に適応し、高校ガイダンスや会場ガイダンスにも参加して高校とのさらなる信頼関係構築や認知拡大を図る。 高校ばかりでなく、外国人在籍の日本語学校についても同様である。
7-33-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	5	学校案内パンフレットで教育内容・教育成果を含む詳細な学校情報を発信している。募集要項は対象別に日本人用と留学生用に分けて作成し、それぞれの入学希望者が理解できるよう配慮している。	WEB サイトのコンテンツやユーザビリティの充実・改善を図ると共に、対象者に応じて SNS を活用したタイムリーな情報発信を強化する。 2024 年度よりパンフ等を大きく刷新しており、志望者に寄り添ったものを目指している。
7-33-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	5	当校には独自の入試・広報窓口があり、志望者等の問い合わせ・相談にきめ細かに対応する体制が整備されている。今後も強化していく。	入試センターの学生募集担当者が学校に常駐して事務局や教務と綿密な情報共有、連携を行う。今後も学園全体で取り組んでいく。
7-33-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	4	定員充足に向けて、日本人、留学生それぞれ KPI を設定し、定期的に進捗状況を確認しながら、目標達成に向けた課題を洗い出し、対策を立案・実行している。コロナ後の経済社会変化による入学気希望者のニーズに対応していく。	事務局、入試センター、マーケティング本部が KPI を共有し、定員充足に向けて一体となって募集活動を強化する。今後も、この体制を強化し、組織的に取り組んでいく。

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-34-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	4	専門学校において教育成果は重要な位置を占めるため、就職実績や資格取得実績を取りまとめて発信するなど正確に伝えている。また学校で行われている授業について積極的に広げていくなどの取り組みをしている。	引き続き、卒業生や就職先企業への取材等を行い、卒業後の活躍の状況を把握して学生募集に活用する。これらの情報を在校生に伝え、意識を高めていく。
7-34-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	5	卒業生の活躍の教育成果が学生募集にどう貢献したかを正しく認識するために、学生にアンケートやインタビューを実施している。卒業生との連携を深めていくようにしている。	学生へのアンケートやインタビューを継続し、卒業生の活躍の教育成果を学校案内等で正確に伝える。在校生や入学希望にとって有意義な情報になるように努めていく。

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-35-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	例年通り、入学選考は、書類審査・筆記試験・面接試験と設け、合否判定基準に照らし合わせて適正かつ公平な基準に基づき行われている。	今後も、選考について改善していく。
7-35-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	関係者のみ閲覧可能なデータベースで選考状況を管理し、合否判定会議のたび更新することで、入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握している。こうした流れを積み重ねていき、次年度に活かしていく。	特になし

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-36-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	5	当校の教育内容に照らし合わせて、学納金は学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっている。	経済状況や家計状況、公的支援の状況を見つつ、常に改善をしていく方向にある。
7-36-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	募集要項において、初年度学納金とその内訳、2年次の学納金とその内訳を明記し、入学希望者に周知徹底している。	今後も、この体制を続けていく。

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、各高等学校や日本語学校との関係構築に努め、募集活動を継続している。また校内で検討後、厳選した指定校推薦制度を継続して活用することで、現在でも、学習意欲が高く、優秀な学生の確保に努めている。</p> <p>また在籍中でも、出席優秀、成績優秀について「学習奨励制度」を継続して制度化しており、学習意欲の向上と維持に努めている。</p> <p>こうしたことは、人物・成績共に優秀な学生を積極的に受け入れるとともに、模範的な学生はきちんと評価されるということを具体的に示し、目標意識の高い学生確保に貢献していると考えている。</p> <p>また、外国人留学生も入学することから、その募集と受け入れについては、これまでの成績、出席率、当校入学の目的・学習意欲、経費支弁能力について、より厳しく審査した上での選抜を実施している。</p> <p>上記のことについて、情報化できるように、関係者のみ閲覧可能な入学選考に関するデータベースを管理・更新することで、入学選考に関する情報を一元管理し、その推移を学科・コースごとに正確に把握している。</p>	<p>本年度の準備期間を経て、2024年4月開設予定のホスピタリティ・ビジネスコースが始まる。すでに設置されているグローバルビジネスコース、デジタル・ビジネスコースと教育資源を共有していく予定である。</p> <p>新コースも含めて、全コースについて、学校全体を上げて、広報活動に取り組み、定員充足を目指して、各部署が連携を行ってきた。本校での目標、教育成果による人材像について、授業内容や資格取得対策の状況、教育成果としての学生の成長などの情報を積極的に提供することを継続している。</p> <p>2024年度に向けては、こうしたことをさらに強化し、パンフ、SNS、HP等について、独自性や魅力を発信する体制を構築している。</p>

基準 8 財務

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-37-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	コロナ後の入学者数減少による影響で、厳しい財務体制であったが、学校全体での取り組みによって安定化を進めてきた。 2024年度は、大幅な入学者増による在籍者数の回復が見込まれており、在籍基盤のより安定化が期待できる。基盤安定のための経営活動、募集活動もより強化されている。	学校経営の財政基盤を安定には、入学者の安定確保が重要であり、募集活動の強化が求められている。コロナ後の入学者数減の影響を受けていたが2024年度からは回復が見込まれている。 今後は、こうした外部環境の変化に対応できる体制づくりの検討をしていく。
8-37-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	5	主要な財務数値に関する情報とその推移について、常に正確に把握しており、不明瞭な点があれば調査・検討し、修正後している。	特になし

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-38-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	5	当校の年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当に行われている。	特になし
8-38-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	5	例年通り、予算案に基づいて計画どおりに妥当に執行されている。	特になし

8-39 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-39-5 財務について会計監査が適正に行われているか	5	本年度、当校の財務について会計監査は適正に行われている。	特になし
8-39-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	5	本年度も、妥当なものとなっており、会計監査実施後、理事、評議員に対しての説明も実施されている。	特になし

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-40-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5	例年通り、会計年度の財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて行っている	特になし
8-40-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5	同上	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、コロナ後の影響もあり、学生数の減少がみられた。しかしながら、2023年度の経営努力と募集活動により、2024年度は大幅な学生数が予想されている。</p> <p>今後も財政基盤を安定に向けて、募集体制の強化、学校運営の安定を目指していく。学園全体の経営目標をもとに、学校での予算策定、実施の適正化、状況に応じた修正を行っている。</p> <p>当校の財務について会計監査は適正に行われており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制も明確であり、監査の実施スケジュールも妥当である。</p> <p>会計年度における財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて公開している。</p>	<p>入学定員だけでなく総定員充足を目標に学生数の確保に向けての活動とその強化が求められる。その中で、日本人入学者の割合をさらに増やし安定的な入学者の確保が急務である。</p>

基準 9 法令等の遵守

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-41-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	5	法令や専修学校設置基準等が順守され、適正な運営がなされている。	特になし
9-41-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4	マネジメントへの啓発活動は出来ている。全教職員・学生に対する啓発活動をさらに進めていく。	本校には、多くの外国人留学生も受け入れていることから、様々な面で法令や専修学校設置基準や東京都の指針を順守するようにしている。法令について、理解を進めていく。

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-42-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	入学時に『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いについて』、『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いに関する同意書』に基づき、学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を講じている。	学校が保有する個人情報保護のための対策は組織としてはかなり進んでいる。一方一人一人の教職員の意識改革、日常業務での個人情報取扱いに対する改善を意識していく。
9-42-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4	当校として個人情報に関する教職員・学生向けへの啓発活動を今後も積極的に取り組んでいる。	個人情報保護に対する教職員の意識は一定レベルにあるが、定期的に教職員・学生等に対する啓発活動をより積極的に実施を継続していく。

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-43-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	4	2015年度より自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。今年度も引き続き実施している。	今後も自己点検・自己評価を定期的実施することに着手し、現在問題点の改善に努めている。
9-43-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	4	自己点検・自己評価の実施が2015年度からであり、年間スケジュールに組み入れ、全教職員で取り組んでいる。今年度も進めているところで会う。	今後も自己点検・自己評価と学校関係者評価、そして教育活動のPDCAを有機的に組み合わせていく。
9-43-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4	2015年度より自己点検・自己評価の実施・公開に着手し、その方針は関係者に対して伝わっている。さらに進めていく。	次年度も、定期的実施する中で自己点検・自己評価に関する方針を関係者に対して正確に伝えたい。

9-44 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-44-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか	5	学校法人 ISI 学園ホームページに公開している。	特になし
9-44-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	5	自己点検・自己評価実施後は、速やかに、学園ホームページに公開することを決めている。	特になし
9-44-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	5	自己点検・自己評価の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっており、外部団体からも評価をいただくようにしている。	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>本校を含む学校法人 ISI 学園では、引き続き、「個人情報保護に関する取り組み」について、明確に規定を定め、その対策に常に取り組んでいる。当校としては学園の方針、規定に沿って学校が保有する個人情報保護に努めている。</p> <p>自己点検・自己評価は 2015 年度から実施しているが、自己点検・自己評価の実施を重ねる中で方針を明確に確立している。</p> <p>今後も関係者に対して正確に伝えていきたい。そして学外に広く公開することで、いろいろな方々の意見に真摯に耳を傾け、問題点の改善に努めている。</p>	<p>現在でも、教職員によって意識差があり、総体的に意識向上させるための定期的な啓発活動も今後も続けていく。</p>

基準 10 社会貢献

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	4	企業・団体との連携はかなり進んでいる。空く年度と同様、地域との連携も目白警察署や豊島区、東京都との間で一定成果が見られた。また、桐生市と新たな提携を結び、地方創生について実践的な教育環境を整えた。	さらに企業との連携を深め、産学接続プログラムの実施を始めていく。
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	2	現在のところ、提供できる空き教室がなく、週末もオープンキャンパスや教室レンタルを行っているために実施ができていない状況にある。	授業数、学生数を見つつ、検討をしていく（特に、デジタル分野での付帯教育授業の検討）。
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	3	学内での行事もできつつあり、地域との連携も含めて、機会を検討していきたいがまだ実施されていない。	実施可能な行事の運営を検討していく。
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	4	例年通り、アメリカ、カナダ、イギリス、豪州、ハンガリーなど諸外国の高等教育機関と 2+2 コースを推進している。 コロナ後に、留学が開始できるようになり当校からも短期・長期留学数が回復している。	留学支援のための人材、組織、体制を整えており、次年度はさらに強化できると思われる。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	4	<p>防災上の問題については地域と連携し、取り組んでいる。</p> <p>学内の防災訓練などを通じて、啓蒙活動を行っている。</p> <p>またデジタルの重要性を学生・教職員全員に啓蒙活動をしている。</p>	<p>例年通り、BCPの策定、修正を毎年適宜行われている。</p> <p>職員の研修活動を実施する他、学生には、授業や学生生活を通じて、デジタル利用について啓蒙活動を継続していく。</p>
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	4	同上	同上

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	学内での大きな動きはないものの、ボランティア活動についての掲示や取り組みの勧めなどを実施している。	さらに学生が、積極的に活動ができるようサポートしていきたい。2024年度は学生に対しての帰属意識を高めるため、学校イベントやオープンキャンパスに関わる体制を構築している。
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	4	学生スタッフと教職員が連携を取り、良いサポート体制を勧めている。	今後も引き続きこの体制を継続していく。

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、今後の経済社会発展に向けて、デジタル化、その利用を強く意識した上で、デジタルに関する研修を昨年度から引き続き受講している。2023年度、そして2024年度は教職員のデジタル知識・利用のしつの向上を目標に、研修や自己研鑽に取り組んでいるところである。</p> <p>学生のボランティア活動は、課外での活動がより自由にできるようになってきたこともあり、地域などの活動参加、自主的なサークル活動ができるように、積極的に支援していきたい。</p>	<p>DXをキーワードに、個々人そして、学校全体のデジタル化へのスキルアップ、学校全体のデジタルシフトをさらに進める。</p> <p>次年度も学生のボランティア活動の参加者の増加、活動の活発化を促していきたい。学生スタッフと教職員が連携を取るサポート体制を継続していく予定である。</p>

平成19年の学校教育法改正により専修学校における学校評価が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から当校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

2023年度の報告書においては、文部科学省が発行する「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

2024年6月

専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価委員会

校長	小林 司朗
副校長	佐藤 貴志
教務副主任	川本 千陽
教務	長島 洋介
教務	浅沼 渉
教務	榎本 由依
キャリア支援担当	米村 真識

事務局主任	伊藤 玲
事務局	鴫巢 茉奈
事務局	山崎 香野子